



令和8年7月23日10時00分発表
(配布先)四日市市政記者クラブ

連絡先：中部運輸局三重運輸支局

電話番号 059-352-2033

担当：須田

連絡先：中部地方整備局四日市港湾事務所

電話番号 059-351-1357

担当：前川

連絡先：第四管区海上保安本部四日市海上保安部

電話番号 059-357-0118

担当：山下

令和8年「海の日」海事関係功労者表彰式典を開催

標記式典を下記により開催し、海事関係功労者の表彰を行いますのでお知らせします。

記

- 日時 令和8年7月29日（水）10時45分
※10時30分より写真撮影をおこなっております
- 場所 四日市商工会議所1階ホール
（三重県四日市市諏訪町2-5）
- 式次第 開式のことば
国歌斉唱
国土交通大臣式辞
来賓祝辞
海事功労者等表彰
受賞者代表挨拶
海洋少年団運動への助成金等の贈呈
閉式のことば
- 添付資料 令和8年「海の日」海事関係功労者表彰式典受賞者名簿

令和8年「海の日」海事関係功労者表彰式典

受賞者名簿



海の日

海にひろがる 夢・みらい

令和8年7月29日

中部運輸局三重運輸支局

中部地方整備局四日市港湾事務所

第四管区海上保安本部四日市海上保安部

三重県海事広報協会

海上保安協会四日市支部

四日市商工会議所

四日市港運協会

「海の日」 海事関係功労者表彰式典

1. 日 時

令和8年7月29日（水） 10時45分～

2. 場 所

四日市商工会議所 1階ホール
（三重県四日市市諏訪町2-5）

3. 式次第

開式のことば

国歌斉唱

国土交通大臣式辞

来賓祝辞

海事功労者等表彰

受賞者代表あいさつ

海洋少年団運動への助成金等の贈呈

閉式のことば

受 賞 人 員 一 覧 表

区 分		国土交通大臣表彰	海上保安庁長官表彰	中部運輸局長表彰	中部地方整備局長表彰	第四管区海上保安本部長表彰	中部運輸局三重運輸支局長表彰	中部地方整備局四日市港湾事務所長表彰	第四管区海上保安本部四日市海上保安部長表彰	計
中部運輸局関係	海 事 功 労			1			1			2
	永 年 勤 続			1			8			9
中部地方整備局関係	港湾関係功労									0
	永 年 勤 続									0
	海をきれいに するための 一般協力者									0
	港湾建設功労							15		15
第四管区海上保安本部関係	海上保安功労									0
	海をきれいに するための 一般協力者									0
計		0	0	2	0	0	9	15	0	26

受 賞 者 名 簿（中部運輸局関係）

区 分	氏 名	事 績	所属団体（事業所）
中部運輸局長表彰(2)			
(海事功労)	飯 田 重 一	港湾運送事業	伊勢湾倉庫株式会社
(永年勤続)	矢 田 佳 史	港湾運送事業	四日市海運株式会社
中部運輸局三重運輸支局長表彰(9)			
(海事功労)	山 路 政 毅	倉 庫 業	福山冷蔵株式会社
(永年勤続)	早 川 季 之	港湾運送事業	日本トランスシティ株式会社
(永年勤続)	杉 江 康 之	港湾運送事業	日本トランスシティ株式会社
(永年勤続)	水 谷 昇 史	港湾運送事業	四日市海運株式会社
(永年勤続)	萩 享	造 船 業	ジャパン マリンユナイテッド株式会社
(永年勤続)	前 平 信 宏	造 船 業	ジャパン マリンユナイテッド株式会社
(永年勤続)	大ノ木 慎也	造 船 業	ジャパン マリンユナイテッド株式会社
(永年勤続)	水 谷 孝 治	倉 庫 業	日本トランスシティ株式会社
(永年勤続)	有 村 竜 也	倉 庫 業	日本トランスシティ株式会社

受 賞 者 名 簿 (中部地方整備局関係)

区 分	氏 名	事 績	所属団体 (事業所)
中部地方整備局四日市港湾事務所長(15)			
港湾建設功労	高砂建設株式会社	優 良 工 事	
港湾建設功労	東亜建設工業株式会社	優 良 工 事	
港湾建設功労	青木 大 輔	優良工事技術者	高砂建設株式会社
港湾建設功労	廣 田 修 治	優良工事技術者	東亜建設工業株式会社
港湾建設功労	基礎地盤コンサル タンツ株式会社	優 良 業 務	
港湾建設功労	遠 島 修 蔵	優良業務技術者	基礎地盤コンサルタンツ株式会社
港湾建設功労	株式会社おかむ ら	安 全 工 事	
港湾建設功労	株式会社シモザ ト	関係協力会社	
港湾建設功労	青 野 祥 一	関係協力会社	株式会社シモザト
港湾建設功労	株式会社種瀬組	関係協力会社	
港湾建設功労	株式会社河北組	関係協力会社	
港湾建設功労	株式会社橋本潜 水興業	関係協力会社	
港湾建設功労	岡 島 賢 直	関係協力会社者 技 術 者	株式会社種瀬組
港湾建設功労	安 藤 新 一	関係協力会社者 技 術 者	株式会社河北組
港湾建設功労	鈴 木 和 生	関係協力会社者 技 術 者	株式会社橋本潜水興業

～「海の日」の由来～

「海の日」は、それまで「海の記念日」としていた7月20日を「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」日として1995年(平成7年)に国民の祝日に定められ、翌年から施行されました。その後、2003年(平成15年)に祝日法改正(ハッピーマンデー制度)があり、7月の第3月曜日を「海の日」として現在に至っています。

そもそも「海の記念日」は、1876年(明治9年)明治天皇が東北地方を巡幸する際、それまでの軍艦ではなく灯台巡視の汽船「明治丸」によって航海をし、7月20日に横浜港に帰着したことにちなみ、1941年(昭和16年)に制定されました。

日本は、四方を海に囲まれた環境であることから、太古より海洋国として成り立ってきました。外国からの文化の伝来をはじめ、人の往来や物の輸送、産業、生活などの各分野にわたって、海との関わりはとても深いものになっています。昨今、ウォーターフロントが開発・整備され、マリレジャーが広く普及するなど、海を利用する機会が多様化する一方で、地球環境の保全という観点から海洋汚染防止の必要性が高まるなど、海の役割はなお一層重要になっています。

かけがえのない地球、豊かな海... その恩恵を深く識り、未来永劫に守り引き継いでいくこと、これが現代に生きる私たちの使命です。



明治丸はその後、東京商船学校(現東京海洋大学)の練習船として使用され、現在は東京海洋大学越中島キャンパスに保存されています



※C to Sea プロジェクト
海や船が「楽しく身近な存在」になるための取組み。

ポータルサイト「海ココ」→

